

京都府幼児教育センターでは、幼児教育の質の向上及び架け橋プログラムの推進のための通信を発行します。

市町村や市町（組合）教育委員会向けの情報のほか、幼児教育施設や小学校の先生方に見ていただきたい情報も掲載しますので御活用ください。

～次期幼稚園教育要領の改訂に向けた方向性について～

<ポイントはこちら>

論点整理では...

- ①主体的・対話的で深い学びにつながる幼児教育の在り方が示された。
- ②幼児教育を学びの出発点として捉える考え方が改めて示された。
- ③多様性の包摂と実現可能性の確保を踏まえた議論が進められた。

次期学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂に向けた「論点整理」では、「主体的・対話的で深い学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」の三つの方向性が示されました。幼児教育においても、これらを踏まえた検討が進められています。

①主体的・対話的で深い学びにつながる幼児教育

幼児教育では、遊びを通して環境に主体的に関わり、人や物との出会いの中で試行錯誤を重ねながら学ぶことが重視されています。今回の論点整理では、このような「遊びを通した学び」が、その後の主体的・対話的で深い学びの基盤となることが改めて示されました。知識や技能を一方的に教え込むのではなく、幼児自らが考え、表現し、他者と関わりながら学びを深めていく過程を大切にする方向性が確認されています。

②幼児教育は学びの出発点

幼児教育は、すべての学びの土台として位置付けられています。幼児期に育まれる主体性や協同性、探究心などは、小学校以降の学習や生活を支える重要な基盤です。そのため、幼児教育と小学校教育を別々に捉えるのではなく、0歳から18歳までの学びの連続性の中で幼児教育を位置付ける考え方が示されています。幼保小の連携を一層進めながら、子ども一人一人の育ちや学びを切れ目なく支えていくことが期待されています。

③多様性の包摂と実現可能性の確保

子どもの発達や家庭環境の多様化が進む中、一人一人の違いや特性を尊重しながら教育の充実を図ることが求められています。また、こうした取組を継続的に進めるためには、保育者や教師に過度な負担が生じない持続可能な教育の在り方も重要です。論点整理では、教育の質の向上とともに、子どもと保育者・教師の双方に「余白」を創出し、豊かな学びや育ちにつなげる視度の必要性が示されています。



令和7年9月25日中央教育審議会教育課程企画特別部会資料より

～架け橋期コーディネーター派遣 他園受け入れ～

派遣園の了解を得て、保育参観や園・校内研修に、他園・校の保育者の参観を受け入れる仕組みです。受け入れ情報は、順次ホームページでお知らせします。

園・所・校名	派遣先・会場	目的	派遣日	開始時間	終了時間	派遣 コーディネーター
京丹後市立大宮こども園	京丹後市立大宮こども園	3～5歳児の保育参観、園内研修での指導・助言(運動会について)、園運営に係る助言	令和8年9月11日(金)	午前9時30分	午後3時	土橋 安子
乳幼児教育の質向上推進事業 乳児保育・教育研修	舞鶴市立中総合会館	乳児保育に関する理解を深め、個々の子どもの発達状態に応じた教育・保育を行うための環境の構成や保育者の関わりについて学ぶ。	令和8年9月16日(水)	午前10時	午後5時	大橋 美智子
南丹市立城南保育所	南丹市立城南保育所	3歳児の遊びや行動を通して発達を学び、保育士の質の高い保育実践につなげ資質向上を目指す	令和8年10月9日(金)	午前9時30分	午後3時	西口 千鶴
京田辺市立三山木保育所 園内研修	京田辺市立三山木保育所	保育参観、園内研修での指導・助言、園経営に係る管理職への助言	令和8年10月20日(火)	午前9時30分	午後3時30分	大橋 美智子
京田辺市立河原こども園	京田辺市立河原こども園	園全体・各クラスの環境づくりについての指導・助言	令和8年10月26日(月)	午前9時30分	午後2時45分	土橋 安子
福知山市立福知山幼稚園	福知山市立福知山幼稚園	3・4・5歳児の保育参観及び事後園内研修において指導・助言	令和8年10月30日(金)	午前10時	午後3時	土橋 安子

☆きらり、育ちのひとコマ☆

～バッタの長さはどれくらい？～

ある園での5歳児の姿です。机の上の虫かごには、とのおさまバッタが入っていました。

しばらくすると、二人の園児が紙の定規を使って、バッタの長さを測り始めました。虫かごの中のバッタをじっと見つめながら確かめています。

後で様子を見に行くと、紙には「5 6 あいだ」と書かれていました。ぴったり5センチでも、6センチでもない。測った結果を前にして、子どもたちは「では、どう表したらよいだろう」と考えたのでしょう。そして、自分たちなりの言葉で「5と6のあいだ」と表現したのです。

大人であれば「5.5センチくらい」と表したくなる場面です。しかし、子どもたちはまだ小数という考え方を知りません。それでも、目の前の事実に向き合い、「5でも6でもない長さ」を何とか表そうとしました。そこには、測ることのおもしろさだけでなく、事実合った表し方を考えようとする姿があります。

この経験は、やがて小学校で小数の学習に出会ったとき、「あのときのバッタの長さだ」と結び付くかもしれません。子どもたちは学びを教えられるだけでなく、自ら必要感をもって学びを生み出しています。遊びや生活の中でのこうした経験こそが、その後の学びをより深く豊かなものにしていくのだと感じたひとこまでした。



～研修動画の紹介～

京都府幼児教育センターがホームページ上で公開している研修動画です。幼児教育施設での園内研修や小学校での校内研修用、また保育者の自己研鑽用として御活用ください。

◇「幼児教育の未来～公私を越えて共に歩む～」

講師：架け橋期コーディネーター 菅原さと子・大橋美智子

